ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E112N002	英語科授業論　(Practical Theory of English Language Teaching　)		

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員
必修	2	4	教育学部 ≪平成３１年度以前入学生用≫			氏名　大谷由布子 E-mail　otaniyuko@oita-u.ac.jp　内線　7580

授業の概要	英語の学習・指導・評価方法に関する知識・理解を深め、実践的な指導技術の基礎を身に付ける。毎回の授業は Small Talk の実践から始まり、講義だけでなくディスカッションやデモレッスンを通して行う。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	学習指導要領や教科書、学習者の特性について理解し、実践に関連付けることができる。		○								
目標2	英語教育実践に必要となる基本的な指導技術を身に付け、デモレッスンで活用することができる。		○								
目標3	生徒の理解に応じて調整しつつ、英語で授業ができるようになる。		○								
目標4											
目標5											
目標6											
目標7											
目標8											
目標9											
目標10											

授業の内容

1	ガイダンス
2	世界の英語教育、日本の外国語教育
3	学習指導要領とカリキュラム
4	外国語教育の目標と評価
5	コミュニケーション能力と言語活動
6	ティームティーチング（デモレッスン）
7	題材の選定と活動例
8	教科書と教材
9	単元指導計画の作成
10	学習指導案の作成
11	技能統合型の指導（デモレッスン）
12	学習者特性と学習方略
13	第二言語習得研究から得られる示唆
14	英語教師としての学びのマップ
15	まとめと振り返り

アクティブラーニング				その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	予習と復習を通して、省察・考察を深める。学習した内容をデモレッスンに応用する。		
B:意見の表現・交換	○			
C:応用志向				
D:知識の活用・創造				

時間外学修の内容と時間の目安		
	準備学修	予習課題への取組（１時間）
	事後学修	学習内容の見直しと振り返りノートへの記入、課題への取組（１時間）

教科書	酒井秀樹・廣森友人・吉田達弘「実践的英語科教育法」（2018）大修館書店
参考書	『中学校学習指導要領』平成２９年告示　文部科学省 『中学校学習指導要領解説　外国語編』文部科学省 『小学校学習指導要領』平成２９年告示　文部科学省

成績評価の方法及び評価割合

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
授業内での課題への取り組み	40%	○	○	○							
デモレッスン	30%	○	○	○							
定期試験	30%	○	○								

注意事項	
備考	
リンク	URL

担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	英国出版社における教材開発を経て、文部科学省初等中等教育局国際教育課外国語教育推進プロジェクトオフィサー
実務経験をいかした教育内容	産官の視点を反映させた講義を目指す。